

## 平成 23 年日本熱物性学会第 2 回(2011-2)役員会議事録

日時：平成 23 年 4 月 23 日(土) 理事会 10：30～12：30 役員会 13：30～16：30

場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス 研究棟 5F 大会議室

出席者：(五十音順・敬称略)

赤坂亮(九州産業大学)

熊野智之(神戸市立工業高等専門学校)

木下進一(大阪府立大学)

佐藤讓(東北大学大学院)

高野孝義(豊田工業大学)

長坂雄次(慶應義塾大学)

馬場哲也(産業技術総合研究所)

春木直人(岡山大学)

牧野俊郎(京都大学)

宮崎康次(九州工業大学)

桃木悟(長崎大学)

山田純(芝浦工業大学)

山本泰之(産業技術総合研究所)

### 審議事項：

馬場会長よりご挨拶があった。震災と原発事故の被害に対してお見舞いが述べられた。今回の役員会では、東日本大震災への対応に関しても、話し合いをしたいとのこと。山田事務局担当より名簿のチェックの依頼と、配布資料の確認が行われた。名簿のうち、山田修史理事と山本泰之評議員の所属機関の「物性統計科」の記述を「材料物性科」に変更することとなった。

### 議 題：

#### (1) 前回議事録確認(第 1 回 1 月 2 2 日)・・・資料番号：11-2-2

山本評議員より、資料 11-2-2 に基づき、前回議事録の確認があった。編集委員会の記録に関して、J-Stage に移植されるのは熱物性シンポの論文ではなくて熱物性誌の論文であるとの指摘がなされ、そのように変更することで了承された。

#### (2) 規約の一部改定について・・・資料番号：11-2-3

山田事務局担当より、資料番号 11-2-3 に基づいて、規約の一部改定の提案の説明があった。結論から言うと改定はしないとのこと。会費などを管理している郵貯銀行の手続きをしようとしたところ、規約に団体の所在地に関する規定が必要である旨の指摘を受けた。そのために会則の改定が必要であるかと考え提案したが、郵便局に提示する資料だけ変更することにして、会則自体は変更しないと考え直した旨の報告があった。これらの提案に関して、了承された。

#### (3) 第 32 回日本熱物性シンポジウムについて・・・資料番号：11-2-4

長坂シンポジウム実行委員会委員長より、資料番号 11-2-4 に基づいて報告があった。主催、後援、共催、協賛はこれまでとほぼ同じで、農業機械学会が加わっている。開催場所は予定どおり慶応の日吉キャンパスである。懇親会も同じキャンパスのレストランである。各種の期限は厳守としたこと、期限の直前にはメールにて何回か連絡することについて説明があった。桃木理事に実行委員会に入っていた。熱物性学会・熱測定学会合同セッションを企画していることが特徴的である。熱測定学会とは、これまで 5 年おきに合同シンポジウムを開催していたが、今回は、事前に決まった会場が離れてしまった関係で、合同シンポジウムは行わず 1 セッションだけ交流を設けようという方針が、諸岡会長の会期に決定された。そ

ここで第 32 回熱物性シンポジウムでは、熱測定学会との合同セッションを設け、中別府先生と西本先生に世話人となっていただいている。一方、熱測定学会では「デバイス材料の熱物性」というセッションが設けられる予定。レビューは長坂シンポジウム実行委員会委員長を予定し、セッションは産総研の八木研究員、九工大の宮崎理事に依頼している。そのほかに 1 名ほど依頼する予定である。熱物性シンポの OS は 14 件を企画した。今回の OS ではレビュー講演を企画したことが特徴である。また、新しくワークショップとして、「あなたの周りの熱物性研究」が企画されている。企業における熱物性とのかわりに関する企画も設定している。特別講演として、富田勝教授に依頼して、メタボローム解析とその応用に関して講演していただく。学生ベストプレゼンテーション賞については、審査の結果は後日連絡するという方法でいく。熱物性シンポジウムでの熱測定学会の交流セッションのための講演論文集のフォーマットを提案する。牧野先生から、前回の合同シンポジウムでの経験をもとにアドバイスをいただいたので、よく考えながら進めようと考えているとのこと。フォーマットを熱測定学会に提案してゆくとのこと。馬場会長より実行委員会の一存で進めていただきたいとの発言があり、了承された。役員会資料の 17 ページの一般セッションの「(3) ふく射」は、「(3) ふく射性質」にしてほしいとの提案があり、了承された。合同セッションのフォーマットの参考文献の誤記を訂正したうえで、了承された。

#### (4) 第 33 回日本熱物性シンポジウム準備状況・・・・・・・・・・資料番号：11-2-5

木下評議委員より、資料番号 11-2-5 に基づいて、第 33 回日本熱物性シンポジウムの準備状況について説明があった。日程は 2012 年 10 月 3 日～5 日で、会場は大阪市立大学の杉本キャンパスを想定している。他の関連学会のスケジュールを確認して、日程をはずすようにしたとの説明があった。

#### (5) 東日本大震災に対する対応について・・・・・・・・・・資料番号：11-2-6

佐藤副会長から、震災のお見舞いに対するお礼の挨拶が述べられた。大学内での人的犠牲はゼロであったことはよかった。建物の被害などが大きく、大学の混乱は続いているとのこと。山田事務局担当より、資料 11-2-6 に基づいて、東日本大震災に対する対応に関して説明があった。資料中の記述のうちヨーロッパ熱物性学会ではなく、ヨーロッパ熱物性会議の実行委員から、とするのが良いとの意見が出た。牧野先生から、学会からの提言として、より具体的に被災者にとどくメッセージを発信できないかと提案があった。被災者への提言の一例として、通称“プチプチ”を壁面に貼ることで人体からのふく射熱による冷却を防ぐことができる。生活上の伝熱量は、対流 1 に対してふく射 10 ぐらいの大きな違いがある。仮設住宅の断熱にこのアイデアが使えるのではないか。このような知恵を出して、提言できないだろうか。牧野先生より紹介された「仮設住宅で寒い冬を乗り切るためのヒント」の資料をもとに、被災者へのメッセージを本会ホームページに掲載したり、ビラを作成したりするのはどうか。HP が現実的ではないかとの意見が出された。役員会の後に検討を続けることとなった。

#### (6) 各種委員会報告・・・・・・・・・・資料番号：11-2-7

##### 編集委員会

山田事務局担当より資料 11-2-7 に基づいて、熱物性 5 月号の編集状況について説明があった。論文をさらに数編掲載する予定であるとのこと。編集事務局が被災したことから、発行が少々遅れるとのことであった。

##### 表彰委員会

牧野表彰委員会委員長より、資料 11-2-7②に基づいて、表彰委員会の活動について説明があった。学会

の各賞への推薦、応募をいただきたいとの依頼があった。功労賞の選考等に関する内規に関して、「盾」の記述を「記念品」に変更するが、誤記の修正の記述まではしないとの説明がなされ、了承された。

#### 熱物性サービス委員会

馬場会長より、資料 11-2-8 に基づいて、熱物性サービス委員会の活動について説明があった。公開方法に関して検討を行っているとのこと。

#### 活動委員会

桃木活動委員会委員長より、資料 11-2-7④に基づいて、活動委員について報告があった。活動委員会として、分科会から一名ほど出席していただいた。資料の誤字を一部修正することで了承された。

#### 広報委員会

宮崎広報委員会委員長より、資料 11-2-7⑤に基づいて、広報委員会の活動報告があった。HP の整備状況と、メーリングリストの運用に関して説明があった。

#### 研究分科会

山田事務局担当より、資料 11-2-7⑥-1 に基づいて、研究分科会に関して説明があった。新たに「水の特異な熱・輸送特性と応用に関する研究会」が始まる。6 月ごろに開催する予定とのこと。「低温環境における熱物性の基礎と応用」の分科会は、最終年度となるので、冊子の作成、熱物性シンポの OS の企画、熱物性誌の特集記事の企画を予定している。馬場会長より、分科会の活動ルールの作成状況について質問があり、桃木活動委員会委員長から、各分科会の委員から数名が集まって、検討を行っている旨の説明があった。

#### (7) 熱物性学会データベースの公開方法について・・・・・・資料番号：11-2-8

馬場会長から、資料番号 11-2-8 に基づいて、熱物性学会データベースに関して言及があった。同一内容を熱物性値サービス委員会の説明の際に取り上げたのでここでは省略するとのこと。

長坂国際連絡事務担当から国際連絡事業に関して説明があった。熱物性に関連する国際会議への出席が減少気味であるので、推奨してゆきたい。国際交流もやや低迷しているので、推進してゆきたいとのこと。韓国との国際交流に関しては近年停滞気味であるとの意見が出て、馬場会長より、本年度の 4 月に韓国の会議に参加する予定であったが、震災の影響で中止することになったとの説明があった。シンポジウムでの国際交流のセッションの設置は、いろいろな問題があって、現実的ではないだろうとのことであった。

#### (8) 共催・協賛関係・・・・・・・・・・資料番号：11-2-9

山田事務局担当から、資料 11-2-9 に基づいて、共催・協賛関係について説明があった。3 つの学会から共催の依頼があり、本学会として承諾し、HP へ記載した旨の報告があり、了承された。

#### (9) 会員異動・・・・・・・・・・資料番号：11-2-10

山田事務局担当から、資料番号 11-2-10 に基づいて会員異動の状況の説明があった。退会がやや多いのが気になる。特に 2 つの法人会員の退会は残念である。一方で株式会社ニチアスは法人会員になっていたとのこと。

#### (10) その他・・・・・・・・・・資料番号：11-2-11

宮崎記念祝賀会担当から、資料 11-2-11 に基づいて創立 30 周年記念祝賀会収支報告について説明があっ

た。寄付が1件あった。交通費も入れたとのこと。長坂前期事務局担当より収支差について説明があった。